



クレ校だより

シンガポール日本人学校小学部クレメンティ校
矢掛町立山田小学校 井上良平(平成27年度派遣)

小学部クレメンティは、シンガポールの西部の丘陵地帯にあり、向かいにはシンガポール国立大学があります。イスラム教のモスクや緑豊かなクレメンティウッズ(公園)に隣接していて、周辺にはコンドミニウム(日本でいうマンション)やHDB(日本でいう分譲公団住宅)が多数あります。クレメンティ校は、小学1年から6年まで約770名の児童が在籍しています。本年度6年生の担任として過ごした1年間の様子をお伝えします。



本校ではほとんどの子がスクールバスに乗って登下校します。登下校時になると、学校に大型バスがずらりと並びます。登校時には校長先生や先生方が一列に並び、子どもたちとハイタッチをして、下校時には手を振って全てのバスを見送る伝統があります。



2015年でシンガポールは独立50周年を迎えました。8月9日のナショナルデーに向けて、国を挙げてお祭りムード一色。本校にも英会話教室の入り口に大きな模造紙が貼られ、子どもたちや先生がお祝いのメッセージを書き込んでいました。



9月に行われた運動会の様子。ヘイズという煙害(近隣諸国の野焼きが原因)の影響で外での練習はほとんどできませんでした。平成26年度は、9月から12月頃までヘイズの影響で外に出られない日々が続きました。写真をよく見ると煙たいのが分かります。



10月には3泊4日で修学旅行に行ってきました。行き先はインドネシアのバリ島です。マングローブの植樹やウミガメ放流、現地の小学生との学校交流など貴重な体験をすることができました。



一年の中で子どもたちが楽しみにしている行事の一つ、ハロウィンパーティーの様子です。子どもたちは仮装して登校し、英会話の時間に大きな部屋でゲームをしたり、ダンスをしたりして楽しい時間を過ごしました。担任も1日仮装して過ごし、仮装したまま授業をします。昼休みはTrick or Treatも行われ、学校中を仮装した子どもたちが練り歩いています。



本校では毎年保護者のボランティアの方が中心となって、学年ごとに学Tと呼ばれるおそろいのTシャツを作ります。学Tは校外学習や学校行事の際などに着ます。今年の6年生の学Tには学年通信のタイトル「Majula6」の文字が大きく入っているデザインでした。子どもたちは大喜びで着ていました。6年生約120名が全員この学Tを着るととても迫力があります。



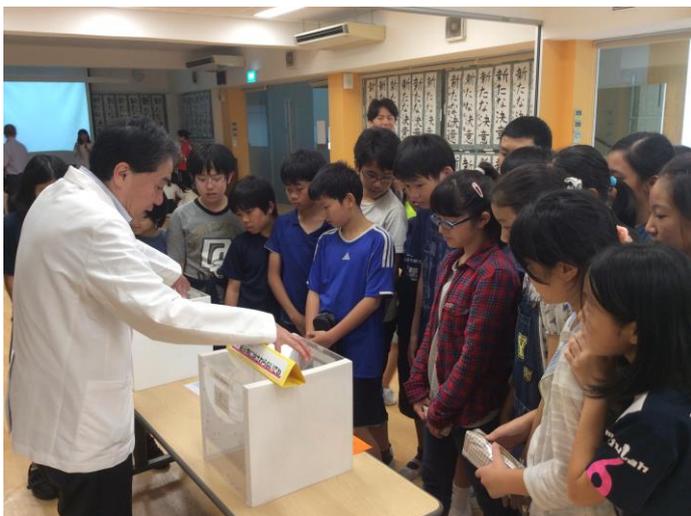
毎年恒例の音楽会「クレッチ子コンサート」が11月に行われました。クレッチ子コンサートでは、学年ごとに合奏と合唱を披露します。今年の6年生は合奏「彼こそが海賊」、合唱「瑠璃色の地球」に挑戦しました。運動会が終わってから真剣に練習に取り組んだ成果を披露することができました。



クレメンティ校では、週に3回程度英語(英会話)の授業が行われています。英会話のクラスは習熟度別に13段階(E1~E13)に分かれています。E13のクラスでは、「世界は平和である」をテーマに賛成・反対に分かれてディベートを行っていました。子どもたちは次々に挙手をし、英語で自分の考えを述べたり、相手へ質問をしたりしていました。45分の授業の間、一度も日本語は聞こえてきませんでした。



総合の学習で12月と1月に史蹟のシロソ砦、オールドフォード工場に見学に行きました。シロソ砦は、1880年にイギリスによりケッペル港を守るために建設されたもので、シンガポール攻略の際に日本軍が砲撃を行った場所です。オールドフォード工場は1942年に日本とイギリスの司令官が降伏交渉を行った場所です。太平洋戦争における日本とシンガポールとの関わりが展示されています。日本がシンガポールを約3年間占領していたことや、現地の華僑、イギリス人からどんなふうに見られていたかなどについての資料が展示してあります。日本軍が行った残虐な行為が写った写真も多く展示してあり、歴史事実として誇張なく伝えています。学習まとめとして、シンガポールと日本の関係について論文にまとめました。子どもたちの論文には、日本とシンガポールの暗い過去だけに目を向けるのではなく、現在は親日家が非常に多いこと、日常生活でもたくさんの現地の人に親切にされていることなど暗い過去を乗り越えて良好な関係を築けていることについて書かれていました。



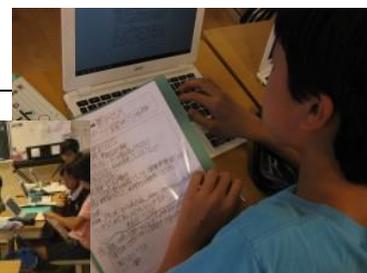
講師の先生をお招きして、感染症（主にデング熱）について話を聞きました。デング熱は蚊が媒体となる病気で、時には死に至る非常に怖い病気です。暑いシンガポールでは、デング熱の問題が非常に深刻で、撲滅に取り組んでいます。デング熱にならないために気を付けることや、蚊が繁殖しない取り組みについて映像資料や展示物を使って分かりやすく説明していただきました。



2月にはNUS(シンガポール国立大学)で日本語を学んでいる学生さんとの交流がありました。子どもたちは学生さんにシンガポールと日本の関わりや将来の夢についてインタビューをしたり、大学内を案内してもらい一緒にお昼ご飯を食べたりしました。人生の先輩に多くのことを学び、貴重な時間を過ごすことができました。自分の将来について考えるきっかけになったようでした。



2月8日・9日はチャイニーズニューイヤー(旧正月)でした。シンガポールでは国中が赤や金といったきらびやかな飾りで一色となります。旧正月のお祝いで披露されるライオンダンスとドラゴンダンスを全校で鑑賞しました。英会話の時間には旧正月をお祝いするパーティーが行われました。パーティーでは旧正月に関するクイズやアンパオと呼ばれる中国のお年玉を使ったゲームをしました。



様々な特色をもつ本校ですが、「ICT教育の充実」もその一つです。担任や子どもたちが授業の中でiPadやGoogle クロームブックを日常的に活用しています。全教室に大型テレビ、アップルTVも導入されていて、今後はGoogle クロームブックの導入数を増やす予定だそうです。6年生は一人一台のGoogle クロームブックを使って調べ学習や意見交流、プレゼンなどにも活発に取り組んでいました。



3月11日、太陽の光が燦々と降り注ぎ、シンガポールらしい天気となった日に卒業証書授与式が執り行われました。117名の6年生が堂々とした姿で自分の夢や抱負、家族、友達、先生への感謝の言葉を述べました。卒業生の約4割は日本に帰国したり、他国へ行ったり、シンガポールのインター校へ編入したりします。シンガポールで豊かな国際性を身につけた彼らの今後がとても楽しみです。



生活についてまったく触れていなかったのが、シンガポールの子育て事情を少しだけお伝えします。シンガポールにはショッピングモールや公園に無料で遊べるプレイグラウンドがあります。常夏の国らしく水を使った遊具も数多く見られます。私は休日になると子どもを連れてよく利用していました。他にも10~20ドル程度出せば有料の室内プレイグラウンドで遊ばせることもできます。シンガポール人は子どもに対してとても優しく、子どもと一緒にいるといつも声を掛けてくれたり、荷物を持ってくれたりします。1年間生活してみて、とても子育てがしやすい国だと感じました。